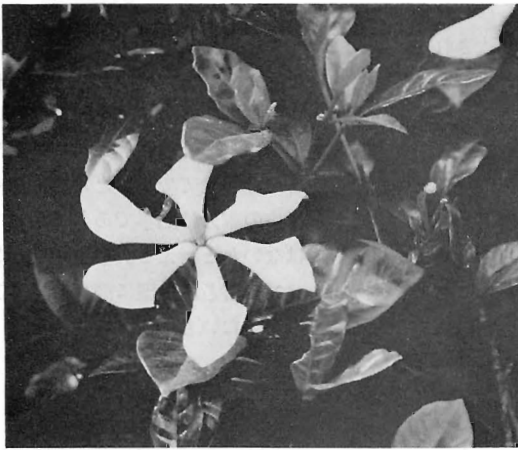
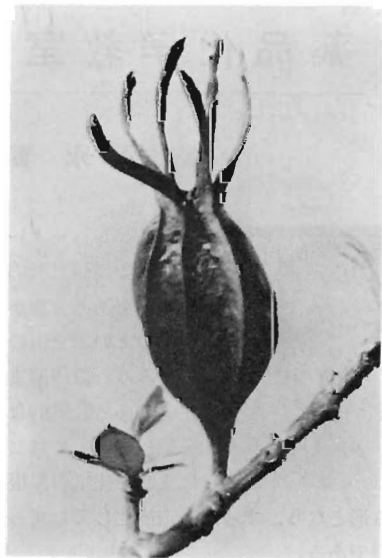


ク チ ナ シ



クチナシ *Gardenia jasminoides* Ellis は日本、台湾、中国南部、フィリピンと広く分布し、日本では本州中部以西の暖地に自生する常緑の低木である。初夏、枝先に白色六弁の花を咲かせ、学名の種小名に表わされているように、ジャスミン様の香気を持っている。蒴果は5~7つの稜を持ち先端に線状のガク片(宿存萼)を残した円みのある紡錘形で、熟すると黄赤色になる。果実を乾燥したものは山梔子(サンシシ)といわれ、染料、薬用とされる。染料としては布類の染色のほか、飲食物の着色料としても使われる。薬用としては、消炎、利尿、下熱(解熱)、鎮痛などの目的で茵陳薺湯、梔子厚朴湯、黃連解毒湯、梔子煎皮湯、防風通聖散などの漢方薬に処方される。成分としては、カロチン系色素の α -crocin、イリドイド系化合物の genipin, geniposide, gardenoside などが確認されている。クチナシの仲間にはヤエクチナシ、コクチナシ、ヤエコクチナシ、オガサワラクチナシがあり、他に園芸品としてオオヤエクチナシ、フイリクチナシ、フクリンクチナシ、マルバクチナシなどがある。これらクチナシの木には、萼が透明で萼が黄

(緑黄)と黒の横縞模様になったスズメガの一種である美しいオオスカシバが好んで卵を生みに来る。このガはスズメガの多くのものが夕暮から活動する夜行性であるのに対して、白昼元気に活動しており、その透明な翅や体の模様、さらにはすばやい行動性などから、ガの仲間とは考えにくい面があり、ハチかアブの仲間だと思っている人が多いようである。幼虫は青緑色のイモ虫で、10 cm ぐらいにまでなり、食欲旺盛で、小さな木だと2、3日で丸坊主にしてしまう。クチナシの名前の由来はいろいろあり、「口無し」で果実が裂けないことからつけられたとする説、「ナシ」は果実一般のことで、上部の宿存萼を口に見たてて「白梨」と名づけられたとする説、“蛇なら食べるかもしれないが人間には食べられない果実”すなわち「蛇梨(クチナワナシ)」が転化したとする説などがあるが真偽の程は明らかでない。落語にでてる“クチナシやハナから下はすぐアゴだ”なんていうのは一番目の説をとったことになる。(小澤 眞)



就任のご挨拶

学生部長 栗原拓史



このたび、はからずも学生部長という大役に選任され、とまどいと不安で一杯である。過去に学生部委員として、お2人の部長さんにお仕えた経験があるものの、歴代の先生方のように大役を全う出来るかどうか、大変疑わしいものである。

そもそも学生部の仕事は、大学と学生との間の橋わたし役が中心であり、取り分け学生の代表である学友会執行部の学生諸君とのコミュニケーションを密にすることが必要と考える。学生の希望、考えを大学側に伝え、大学の実施しようとする事がらを学生にうまく説明し、理解してもらおうパイプ役になるのであれば、室外僕にでも出来るのでは……と自惚れている。

先日、機会があって10数年前の学報を目にした。教員

学生懇談会に記されている内容は、今日でもしばしば耳にすることが多く、一種の安ど感をおぼえた。本学のような小さな単科大学においては、学生の気質はそう大きく変化するものでもなく、自分もこの大学を卒業(S37)した1先輩ではないか……と開き直った。とにかく2年間自分の良心に従って行動してみたいと思う。前部長はとても温厚な、説得上手な方であったが、私にはそのような真似は出来るはずもなく、教員の方々、学生部委員(望月先生、馬場先生、三野先生)の方々、そして学生課のベテランの方々の、ご指導、ご協力をお願いする次第である。

今年度薬剤師国家試験合格率低下に端を発し、最近おこなわれた単履試験の採点も厳しくなると学生間で取沙汰されている。一部学生の授業に対する態度にシラケムードを感じるようになったのは私だけであろうか。魅力ある授業であれば出席するという学生、必須科目でありながら出席率が極めて低いと嘆く教員。大学生生活は授業に出て、勉強することだけが全てであるとはもちろん考えていない。しかし学生の本分は勉強であり、勉強あつてのクラブ活動等ではないかと考える。学生諸君とおおいにコミュニケーションを持ち、希望に満ちた学生生活を送ってもらえるよう考えたいものである。

■研究室だより

薬品化学教室

教授 松永春洋



東館エレベーターを昇りつめたすぐ隣が私共の薬品化学研究室である。窓からは正面に姿のよい二上山の緑色が目に浸みる。数年前まで周辺は牛舎のある牧歌的な田園風景を楽ませてくれたが、今ではまるで住宅の屋根上に山が乗っかる形となり、すっかり市街化してしまった。急遽な変り様である。

しかしながら部屋の中は相変わらず色々なクロマト管が立ち並び、10年1日の様に抽出分離、反応などの操作が繰り返されている。現在のスタッフは私の他、田中(旧姓森田)麗子助手と質量分析担当の栗本真理 助手である。マススペクトルも昨年、新鋭の日立M-80型質量分析計に置き替えられて威力を発揮し、各研究室の需要に即応すると共に機械の保守が随分楽になった。

マツ科亜高山植物のテルペノイドの研究に従事して以来、未調査天然資源の成分検索と生理活性の追求、同種懸植物の Chemotaxonomy の解明を自指して今迄に Euphorbia, Pinus, Pittosporum の三属の植物を扱って来た。Euphorbia は毒性のあることを、Pinus はフィトンチッド学説を信じて手をつけたものである。元來人の関心を引かず、手つかずの資源は面白い研究材料にはなり難いが、エキス分が低含量であったり必要量の採集が困難と云う悪条件にも悩まされる羽目となった。歴代のスタッフの献身に支えられ、多勢の特別実習生諸君の協力のお蔭で田圃や荒地、深山の溪谷を探し廻り、夏休み

を返上した方々も多い。又営林署の許可を得て御嶽山八合目の国有林にまで車を提供して採集を助けて頂いた。何度も栽培に失敗し、昨年夏どうにか増殖のめどがついた植物もある。

これらの仕事の一部は現在どうにかまとめの段階にき

ているが、biogenesis の概念からはずれる珍奇な化合物数種を含めて色々と解決せねばならない微量成分が多く、今年も鋭意の若い人々に囲まれて万年青年の心意気を失わない様取り組みたいと思っている。

卒業教育講習会の開催

薬学関連領域の学問の進歩の現況、あるいは新しい情報・問題などを、卒業生各位ならびに関心のあ
る他大学卒業生に提供しようと、本学では本年度より卒業教育講習会を開催することとなりました。各
分野のそれぞれ権威ある方々を講師としてお招きし、本学の教授陣も参加して、昭和58年度のスケ
ジュールは次のように決定しました。申込書などについては庶務課に問合せ下さい。

昭和58年8月6日(土)

午後1.00~2.50 薬の体の中での動き
大阪薬科大学 教授(薬剤学)
森坂 勝昭
午後3.00~3.40 学内施設等見学
午後4.00~5.30 心とからだ
京都大学元総長
神戸市立中央病院長 岡本 道雄

昭和58年8月7日(日)

午前10.30~12.20 免疫学における最近の進歩(I)
午後1.30~3.20 同上(II)
大阪市立大学医学部 教授(生化学)
森沢 成司

昭和58年8月27日(土)

午後1.00~2.50 血圧の管理の重要性と高血圧治
療の進歩
大阪市立大学医学部教授(内科学)
武田 恵直
午後3.10~5.00 薬物療法と剤形
京都大学薬学部 教授(薬剤学)
瀬崎 仁

昭和58年8月28日(日)

午前10.30~12.20 なぜ今、健康食品なのか
大阪薬科大学 教授(衛生化学)
藤田 直
午後1.30~3.20 精神薬理学の最近の進歩
京都大学医学部 教授(薬理学)
高折 修二

昭和58年9月17日(土)

午後1.00~2.50 室内空気の汚染
大阪薬科大学 教授(公衆衛生学)
水谷 泰久
午後3.10~5.00 中年の「うつ病」とその治療薬
について
名山屋大学医学部 教授(精神医学)
笠原 嘉

昭和58年9月18日(日)

午前10.30~12.20 現代医療の中の漢方
富山医科薬科大学附属病院
助教授(和漢診療部長)
寺沢 捷年
午後1.30~3.20 浮腫の治療薬
大阪薬科大学 教授(薬理学)
森本 史郎

学生クラブハウスの新築について

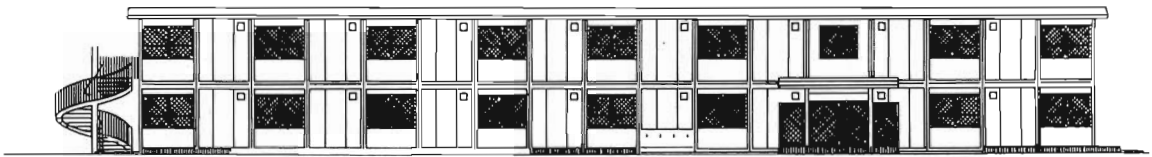
事務局

学生関係施設の整備については、数年来の懸案となっておりましたが、そのうちで最も必要とされてきました学生会館は、去る2月竣工、学生、教職員に利用されております。他方学生の課外活動施設として現在の各部室の整備についても、その具体化を図るため、学内関係委員会、学生部、学友会等の希望、意見を取りまとめながら、その間細部にわたる調整打合せを進めつゝ実施設計を完了、関係官庁の建築許可手続を経て、6月中旬着工、8月上旬竣工の予定となっております。

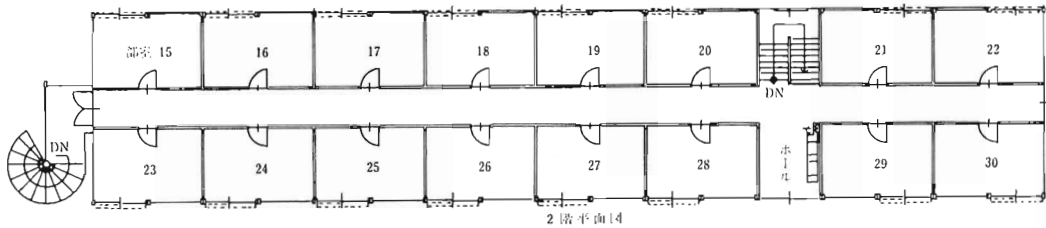
(仕様概要)

面積一延685㎡、構造一軽量鉄骨2階建 外部仕上は、屋根一ルーフデッキ、外壁一吹付タイル、内部仕上は、1階床一モルタルコテ仕上、2階床一長尺塩ビシート貼、壁一インパクトボード（1、2階共通）、天井一化粧石膏ボード（1、2階共通）

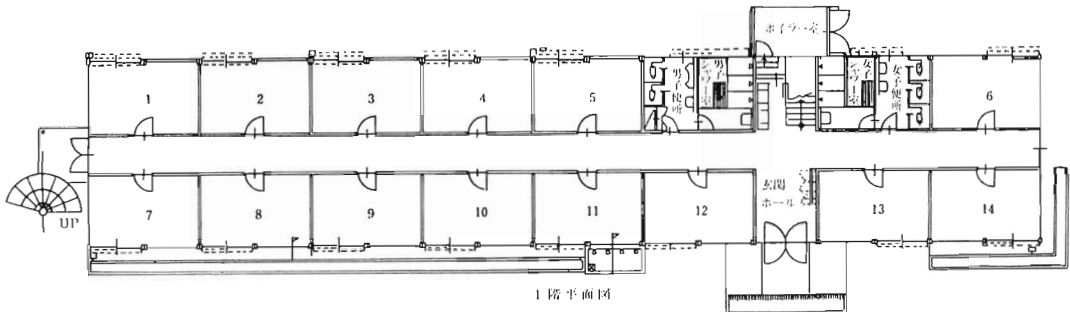
なお、施工期間（6月から8月）中工事現場周辺区域及び構内道路通行について、工事資材搬入等のための車輛の出入がありますので、何分のご理解とご協力をお願いします。



東立面図



2階平面図



1階平面図



昭和57年度会計の決算について

事務局長 小 村 俊 夫

学校法人大阪薬科大学の会計処理内容については、毎年度2回（10月及び年度経過後の5月）公認会計士による監査を受けていますが、更に57年度決算書に基づき、法人監事の経理全般にわたる監査を5月23日に受けたのち、5月24日の理事会及び評議員会において審議の結果、承認されました。

また、関係官庁等（文部省、私学振興財団）に対しても、決算関係書類の提出をしております。

つきに、消費収支計算書総括表について、予算に対する決算との差異等の概略を説明します。

（収入の部）

1. 学生納付金について

決算額10億6817万円余、予算額との差異2002万円余減は、予算積算員数と入学者実員数の差減。

2. 手数料について

決算額5407万円余、予算額との差異112万円余減は、予算積算入学志願者見込数と志願者実員数の差減。

3. 寄附金について

決算額487万円余、は学生会館内部設備（備品扱いの器具）の父兄会寄附金。

4. 補助金について

決算額3億6692万円余、予算額との差異2307万円余減は、国庫補助金の抑制。

5. 資産運用収入について

決算額1億4198万円余、予算額との差異4998万円余増は、銀行利息等の変動。

6. 事業収入について

決算額1406万円余、予算額との差異61万円余減は、

消費収支計算書総括表

昭和57年4月1日から
昭和58年3月31日まで (単位円)

〔消費収入の部〕

科 目	予 算	決 算	差 異
学生納付金	1,088,200,000	1,068,175,000	20,025,000
手数料	55,200,000	54,072,500	1,127,500
寄付金	0	4,874,470	△ 4,874,470
補助金	390,000,000	366,924,000	23,076,000
資産運用収入	92,000,000	141,988,093	△ 49,988,093
資産売却差額	0	180	△ 180
事業収入	14,680,000	14,067,120	612,880
雑収入	11,080,000	24,637,729	△ 13,557,729
帰属収入合計	1,651,160,000	1,674,739,092	△ 23,579,092
基本金組入額 合 計	△373,490,000	△193,573,562	△179,916,438
消費収入の 合 計	1,277,670,000	1,481,165,530	△203,495,530

〔消費支出の部〕

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	807,800,000	735,718,373	72,081,627
教育研究経費	479,110,000	443,969,823	35,140,177
管理経費	64,520,000	57,373,870	7,146,130
借入金等利息	26,000,000	25,774,337	225,663
資産処分差額	0	1	△ 1
〔予備費〕	10,000,000	—	10,000,000
消費支出の部 合 計	1,387,430,000	1,262,836,404	124,593,596
当年度消費 収入超過額	0	218,329,126	—
当年度消費 支出超過額	109,760,000	0	—
前年度繰越消 費収入超過額	122,710,000	144,245,481	—
翌年度繰越消 費収入超過額	12,950,000	362,574,607	—

学生寮の入居者及び給食数の減。

7. 雑収入について

決算額 2463 万円余、予算額との差異 1355 万円余増は、学生会館の増改築工事に関わる業者負担金及び募集要項。

以上が収入の部における科目別増減理由の概要であり、帰属収入合計16億7473万円余から、基本金組入額（当該年度に取得した建物、設備等の対価）1億9357万円余を控除すると、収入合計は14億8116万円余となります。

（支出の部）

1. 人件費について

決算額 7 億3571万円余、予算額との差異7208万円余減は、57年度給与の人事院勧告凍結が主なる理由。

2. 教育研究経費について

決算額 4 億4396万円余、予算額との差異3514万円余減は、電気、ガス、通信費等の値上率見込の差及び修繕費の実施繰越。

3. 管理経費について

決算額5737万円余、予算額との差異714万円余減は、電気、ガス、通信費等の値上率見込の差及びその他経費の節約。

4. 借入金利息について

決算額2577万円余は、私学振興財団等よりの借入金に対する支払利息。

以上が支出の部における科目別減理由の概要であり、支出合計は、12億6283万円余となります。従って当年度は2億1832万円余の収入超過となり、前年度繰越収入超過額1億4424万円余を加え、翌年度繰越収入超過額は、3億6257万円余という結果になります。

国家試験の結果について

本年度春に施行された薬剤師ならびに臨床検査技師の国家試験の成績は次の通りであった。

◎薬剤師国家試験

	受験者	合格者	合格率	全国平均
第64回	301名	236名	78.41%	79.48%
本学新卒	288名	235名	81.60%	84.08%

◎臨床検査技師国家試験

	受験者	合格者	合格率	全国平均
第24回	25名	5名	20%	50.5%

学生部 だより

■父兄会役員改選さる

去る4月11日(月)午後、大会議室において父兄会評議員会、学生会館ホールにおいて父兄会総会が開催され、多数の御父兄の参加のもとに、父兄会会則および父兄会奨学金規程同規程細則の一部改正、予算決算の審議、昭和58年度役員選出が行なわれた。主な新役員は次の通り。評議員の氏名は昭和58年度名簿（住所録）または父兄会報第2号を御覧いただきたい。

会 長 堀内季雄
副会長 品川知子、岩井孝明
会 計 田中貞夫、山本 久
会計監査 半井利彌、木本ちさと
委 員 佐々木千代恵、山申清行、山本英城、
松下晃一、下長利一

■大学院生の父兄が父兄会に加入

従来、父兄会は学部学生の父兄のみで組織されており、大学院生と学部学生との間に取扱い上の差異があるため、種々不便を感じておりましたが、このたび父兄会会則が一部改正され、大学院生の父兄も父兄会に加入していただくことになりました。このことにより父兄会事業としての奨学金制度、傷害保障制度、弔慰金・災害見舞金の支給、父兄会報の配布等、大学院生の福利厚生面の充実、家庭との関係をより密にすることができるものと期待されます。

■大学院生にも父兄会奨学金規程適用

父兄会会則の一部改正と共に、父兄会奨学金規程の一部改正が行なわれ、大学院生にも奨学金規程が適用されることになりました。奨学金の額は学部学生と同じで年間12万円が、災害等により学費の支弁が困難になった学生に給付されます。募集は毎年6月に行ないます。



昭和57年度公認スポーツ指導者 海外研修の報告

助教授 望 月 伸 三 郎

昨年10月から11月にかけて、日本体育協会公認スポーツ指導者海外研修団の一員として、イギリスを中心に、フィンランド、ハンガリー、ギリシャの4ヵ国を約1ヵ月間の日程で研修する機会に恵まれました。

ここで一寸触れておきますが、公認スポーツ指導者というのは日本体育協会が毎年、1年間の講習日程で行います指導者講習会（通信教育6ヵ月とスクリーン、前後期2回）を受講し、専門教科40時間（5日間程度の合宿講習）を終了してテストに合格したものでなければなりません。

これらの資格を持って日本体協へ登録されている人は全国で、スポーツ指導員約18000名、コーチ・上級コーチが約1500名、トレーナー約2000名と合計2万余人の方がおります。（私の資格はトレーナー）。そうしてこの人達の中から毎年9名、それに団長1名、日本体協から1名の計11名が海外研修員として派遣されています。

はからずも私は57年度の一員に推薦され、大学の理解と協力によって、この貴重な機会に恵まれたことを感謝し、報告の意をこめて綴ってみました。

イギリス

海外研修の最初の訪問国はイギリスで、10月22日の午前中に着いて11月2日の朝ヒースロー空港を出発するまでの11泊12日間の滞在であった。

イギリスは近代スポーツ発祥の地として歴史も古く、それだけにスポーツの盛んな国である。

到着早々、ブリティッシュ・カウンシルとスポーツ・カウンシルのそれぞれの活動内容や相互の連携についての概略が説明され、「ブリティッシュ・カウンシルの事業の

一環として、日本体協の皆様をお迎えし、潜在中はスポーツを通して、イギリスへの理解を深めていただくよう御世話します」と団員1人1人に滞在中のスケジュールを書き込んだ個人宛の日程表が渡された。

このスケジュールに従って、前半の10月22日から10月28日の朝まではロンドン市内にあるクリスタル・パレス・国立スポーツセンターに宿泊し、同センターの管理、運営について研修したり、ロンドン市内および近郊の公共スポーツセンターを訪問してレクチャーを受けたりした。後半の10月28日から11月1日までは、リリシャルホール・国立スポーツセンターに滞在して、バーミンガム大学、アストンビラ・スポーツセンター、シュウスベリー・パブリックスクールなどを見学して廻った。

こうしたイギリス滞在中で見たり聞いたことによると、この国の国立スポーツセンターは6ヵ所あり、そのうち3ヵ所は総合的施設が備わっているとのことでした。吾々はそのうちの2ヵ所に宿泊研修したのである。



クリスタル・パレス・スポーツセンター屋内競技場（6階の宿舎から写す）



クリスタル・パレス・スポーツセンターにて私の誕生日を祝って

クリスタル・パレス・国立スポーツセンター

国立スポーツセンターは、各センター毎にそれぞれの特色をもっており、吾々が最初に泊ったクリスタル・パレスは陸上競技、柔道、水泳の種目が中心になっていた。

この施設を紹介すると、ここには非常に大きな建物があり、その中には5mの跳込み台を持つプールを含め温水プールが4つあり、大ホールではバスケット、バレー、グラウンドホッケーの練習を交替で使うとのこと、小ホールは卓球やバドミントンが使い、スカッシュコートは部屋8つ（テニスの壁打ちのようなゲーム）、選手のトレーニング機器を置いてある部屋、柔道場（レスリングと共用）、シャワー室、更衣室を含めたものが全部この1つの建物の中にある。その他に陸上競技屋内練習場とかバーを含めた建物もあり、選手宿舎は11階建ということであったが、螺旋階段を真中にして4、5段昇った所におどり場があって2部屋ずつ設置され、200人位が宿泊出来るようになっている。宿舎と廊下続きに食堂、研修室、スタッフ・ルーム、ゲーム機を置いてある娯楽室の建物もある。屋外施設には観客6万人収容の陸上競技場、人工芝のサッカー（兼ホッケー）場、ネットボールコート（日本のポートボールと似ている）、テニスコート、ジョギングコースなどがあり、屋外施設は全部夜間照明付で昼よりも夜間の使用頻度が多いとのことでした。

ここは大会のロンドン市内にあるだけに利用者も多いので使用優先順位が決まっています、その順位は次の順になっている。

- ①一流選手(ナショナル選手)を最優先に使用させる。

- ②教育用（学校の体育授業として使う）、1週間に約5000人の児童、生徒が使う。

- ③このセンターに登録しているクラブ・メンバー（会員）に使用させる。

- ④1日メンバーとして使用料を支払う者に使用させる。

使用料金は①と②は③④よりも低料金で③は④よりも使用申込みで有利な条件となっている、と言った内容である。地域(区立など)のスポーツセンターの使用優先順位は、その地域(区)の住民が優先し、他の地域の人より安い料金となっている。またウィークデーの特に午前中は学校の体育授業で

使うように運営しているようである。

イギリスではサマー・タイムが実施されており、吾々がここで滞在していた10月23日(土)までがサマー・タイムで10月24日(日)から標準時間に戻り、朝1時間ゆっくり眠れるようになった。日曜日は研修もなく市内観光ということでロンドンの街に出かけた所、ロンドン塔、バッキンガム宮殿、セントポール寺院といった名所は5・6台の観光バスが駐車して何処も満員の盛況であったが、驚いたことに駐車バスの2・3台は日本人ツアーのものである。地球を半周してこんな沢山の日本人に会うとは思ってもよらなかった。

リリシャルホール、国立スポーツセンター

イギリス滞在の後半はロンドンから北へ230km、イギリス第二の都市バーミンガム市があります。このバーミンガム市を西へ40kmの所にニューポートという小さな田



クリスタル・パレス・スポーツセンター宿舎手前の低い建物は所長の家



ロンドンタワーよりロンドンブリッジの眺め

合町があり、その町の近くにリリシャルホール・スポーツセンターがあります。ここに宿泊して研修しました。

このスポーツセンターの敷地は大変広く正門の鉄の扉をあけて奥へ3km自動車で5分、樹木に囲まれた森の中の本道を辿ってゆくとうとう受付の建物に着きます。160年前の建物で当時のアフリカ総督、サザーランド侯爵の別荘が寄附され、1972年スポーツセンターとして開所されたとのこと。この施設を簡単に紹介すると、建物は次々、各棟毎に

- A. 受付、食堂、スタッフルーム、体養室などの本館
- B. 卓球、スカッシュルーム4つ、大小研修室（視聴覚機器完備）用具室、バーのあるエリザベスホール
- C. 470床といわれる3階建の
宿舎
- D. 体操競技専用練習場
- E. 陸上競技の屋内練習場
- F. その他全く使われていない
建物も2~3あった。

屋外施設

- ㊶ サッカー場17面（緑の芝生に覆われ土は見当らない）、人工芝夜間照明付1面
- ㊷ テニスコート4面（全天候コート）
- ㊸ 人工芝とか全天候コートの素材展示場（全世界の業者が集って展示する場所）
- ㊹ 18ホールゴルフ場、プロ資格の認定も行う。



リリシャルホール・スポーツセンター レセプション（受付）の建物

このスポーツセンターの特色は体操競技、サッカー、ゴルフが主になっていて、国際級選手が優先され、観客席のない競技場はトレーニング専用として使われているが、施設や用具は一般の人にも利用出来るようになっていた。宿舎は一流ホテル並みの設備で吾々研修団には全員個室が与えられ、快適な研修が出来た。このスポーツセンターを基地にバーミンガム大学やアストンビラ・スポーツセンターを訪問した。

バーミンガム大学体育学部には毎年1~2人の日本人留学生が来ているとのこと。国立大学だけにスポーツ施設も学内に地域のスポーツ

センター並みに揃っていて、さらに市外には広い競技場、キャンプ場、ボートの練習場としての湖、クラブハウスなどが用意されているとの話であった。総合大学でキャンパスは広く、遥か向うの丘に医学部の校舎、病院が聳え、その間を鉄道が通り駅が設けられている。体育学部主任教授の説明の中にも「キャンパス内に鉄道の駅をもっているのは世界中で私共の大学だけではないか…」と自慢していた。

バーミンガム市のアストンビラ・スポーツセンターはアストンビラ・サッカークラブと市の共同で出来た市民のためのスポーツセンターである。

このセンターはサッカー、バドミントン、スカッシュ



リリシャルホール・スポーツセンター庭園より撮す

が主流であるが、使用者の入場料金は大変安いので赤字経営ということであった。その赤字分はサッカーの国際試合観覧料金、ダンスパーティー、結婚式などで補っていると苦しい経営内容の説明もしてくれた。

こうした説明を聞いた後、昼の食事を招待されたあとサッカーの試合、アストンビラ 4-0 トッテンハムの観戦をしたが、ゲームの内容は迫力に欠け盛り上りのものだった。しかし、地元の人気は物凄く、アストンビラのチームカラーであるワインレッドのTシャツ、マフラー、トレーナーとか、ヨーロッパチャンピオンの記念メダル・ミニペナントなど売店の前は行列が出来ていて、並んで順番を待たないと売場に行けないなど、入場料以外にもこうした収入が大きな財源となっている。

リリシャルホール・スポーツセンター滞在中は毎晩のようにセンター内のバーへ行き、近隣近在から集って、スポーツを楽しむ人達とよくビールを飲んだ。

特にセンターの管理人ジム、近所の人でボブとティムの3人には特別に仲良しになり、日曜日には彼等は奥さんを連れて来て紹介してくれた。初対面の社交辞令を含めて、ボブに対して「貴方の奥さんは美しい、お目にかかれて光栄です」と褒めた所、彼の言うのに

は「ユーは老眼鏡が必要ではないか、かすんだ目で見るからそんなことが言える。眼鏡をかけて見直せ」と両手の人差指と親指で輪をつくり、目の所へもって行く身振り、手振りの英語は結構私に通じた。それで私も「老眼ではない、私をもっと若くお互いに独身の時に知り合えたならば、プロポーズして貴方の奥さんにさせなかつたのに」と言ったら、途端に財布を引き出して1ポンド紙幣を差し出すので一寸まごついたが、これは日本語で「そんなら貴方に熨斗をつけて進呈する」と言ったジョークになるのだろう。そんなことでお互いにみんなで大笑

いしながらジョッキで乾杯したりして友好親善を深めた。彼等と別れる時に「学校の地理の授業で日本の国は知っていたが、日本人に逢ったのは生れて始めてだ。日本人がこんなに楽しい人達とは思わなかった。あなた方と知りあえたこの2日間は、私の人生では一番楽しい日だった」と言って別れを惜しんでくれた。

このリリシャルホール・スポーツセンターからロンドンへ向う途中、シュウスベリーというパブリックスクール（英国の私立名門校）を見学した。この学校は13-18才の男子校で、全校生徒650名、教職員85名、学生の90%以上は寮生で学校の周りは寮が建ち並んでいた。



リリシャルホール・スポーツセンター内の友好を深めたバー
左から2人目の女性は通訳小山さん

またこの教員は大学の学生時代、自分の専門以外にスポーツクラブの経験者でないと、この学校の教員になることは難しいと言う説明があっただけに、学校の敷地は大変広く、あちら、こちらにサッカー場があるので教えてみたら14面、ホッケーコート4面もあった。それらはみな、真青な緑の芝生のグラウンドで、広々とした芝生の所々に校舎が建っているといった恵まれた環境で、陸上競技場もスタンドのついた400mのトラックをもった立派なものがあつた。敷地の裏側の方には運河が流れ、巾20mぐらいのこの運河がボートの練習場で岸辺の艇庫をのぞくと2人乗りから8人乗りまで大きささまざま80余隻のボートが充分に手入れされて置いてあつた。

英国では、いろいろな所でこうしたスケールの大きさに驚かされることがしばしばであつた。650名の生徒数で広大なグラウンドやボートの豊富さは、日本の学校では想像出来ない。日本の中学、高校では1500前後の生徒数で、1つのグラウンドに野球、サッカー、ラグビー、陸上競技などがひしめきあつてやっているのだから……。

こうしたスケールの大きさ、発想のちがいは、七つの海に乗り出し、世界をまたにかけて活躍した大英帝国の歴史と、小さな島にひしめき合つて生活し、外国との交渉を避けて閉じこもつて鎖国政策をとつて来た日本の歴



ラハチ・スポーツセンター スキージャンプ台

史との違いをあげる説もある。

フィンランド

11月2日朝早くロンドンのホテルを発つて、ヒースロー空港に向つたがゲートを間違えて、第1ゲートから第3ゲートへ移動、曲りくねつた地下道を20kgの荷物と重い肩掛けの鞆をぶらさげつて右往左往して、やつと辿り着いた時は搭乗時間が迫つていた。

コペンハーゲンを経由して、ヘルシンキ空港に着いたのは2時頃だったが、どんより曇つた空模様で小雪がちらつき、うすすらと雪化粧された景色を見るとこの国が北極圏に近いことを肌で感じさせてくれた。

空港で入国手続きをしていると11人中、私の荷物だけが届かないので、通訳の人が30分ぐらいあちら、こちらと問い合わせてくれたがわからない。通訳の人の話だと、こうしたことは時々あるし、ヨーロッパではこんな手違いは黒人労働者の多いためで、ロンドンのヒースロー空港が一番危険だとのこと。ヘルシンキ空港の長い廊下を出てホテルへ直行、少し早目の夕食をするとゲートの間違いや入国手続の気疲れもあつてか寝てしまった。

翌朝ヘルシンキ空港からホテルに電話があつて、紛失の荷物はノ



ユバスキラ大学



ビエルマキ スポーツ教育センター 屋内競技場

ルウエーの田舎の空港で見つかったので最優先の処置をとってホテルへ届けるからと連絡があり、その日の夕方研修から帰ると届いていた。

フィンランドの2日目は、フィンランド中央スポーツ連盟の組織と活動についてレクチャーを受けた。

フィンランドの政治は世界でも最も数多い政党によって運営されているが、スポーツ組織にもその影響が及び中央スポーツ連盟、労働者スポーツ連盟、スウェーデン語スポーツ連盟、球技連盟といった完全に別個の4つの独立したスポーツ組織があり、それぞれの中央事務局が1つのビル内に同居して活動している。

4つの組織の中で最も大きな100万人のスポーツ人口を誇る中央スポーツ連盟が日本体協研修用の君々を迎えてくれた。それ故、フィンランド滞在中のスケジュールは中央スポーツ連盟のプログラムに従って行動したので、他の連盟についてのことはわからなかった。

3日目からは各地を廻ったが、最初にヘルシンキから北へ100kmぐらい離れたラハチ市を訪れた。

ここには、まずスキーのジャンプ台が3本ずつ、3ヵ所建ち、10万人収容の陸上競技場の偉容が目やうぼう。これと向い合ったサッカーの屋内競技場は人工芝がきれいに敷きつめられていて、コートのみりは4000人収容の観客席がとりまいている。この競技場の天井

の高さは7階建ビルの高さと同じで、照明は1350ルクス、室温は14~18°Cに自動コントロールされている。陸上競技場の横には50mの屋外プールがあり駐車場をへだてた向う側には、アイスホッケーの屋内競技場、その外にはサッカー、グラウンドホッケーなどの屋外コートがあるなど、人口9万5千人の街にしてはとてつもなく大きなスポーツ施設が整っている。

ラハチ市から北へ170kmほど行くとユバスキラ市がある。ユバスキラ市スポーツセンターとユバス

キラ大学を訪問した。ユバスキラ市スポーツセンターは余り大きくなく、屋内には日本の高校の体育館ぐらいのホールと他に剣道場並みの小ホールがあり、大きい方のホールでは、バレー、バスケット、テニスなどを行い、小ホールでは卓球、バドミントン、空手などを行うとのこと、このほかに器械体操の練習場やトレーニングジム、ダンスのレッスン場、スケートリンクが1つの建物の中であって外にはフィンランド野球場（日本の野球とは違ってピッチャーが居らずキャッチャーの放り上げたボールを打つなど大へんかわった野球である）、陸上競技練習場、9ホールのゴルフ場などがあり、これらは市民優先使用のスポーツセンターである。ユバスキラ大学は



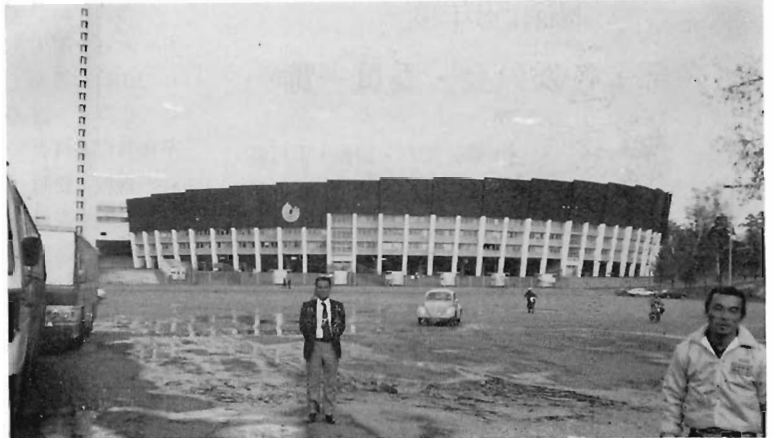
ビエルマキ スポーツ教育センター サウナ小屋

特に体育学部が有名で、ここでは体育教員、スポーツ指導員の養成の方法とスポーツの科学的研究方法について1日中講義を受けた。ユバスキラ大学体育学部の主任教授であるパーボ・コミ教授は国際バイオメカニクス（生物力学）学会の会長であり、吾々が訪問した時は、大阪体育大学の客員教授として招待され講演を終って昨晚帰られたばかりとのことであった。またスポーツの科学的研究について説明されたビー・タサロ助教授は前年の国際バイオメカニクス学会、名古屋大会に來日して京都大

学の先生方には大変御世話になったので、帰られたらよろしく伝えて下さいと言った親しみをこめた挨拶もあった。さらにユバスキラ市から東へ100km、中央スポーツ連盟のスポーツ教育センターのあるビエルマキに行く。このセンターはユバスキラ大学で行なうスポーツの学問的・科学的研究を技術的に、能力的に追求するための場所であり、国際級選手のトレーニング、指導者やスポーツドクターの研修を行う場所でもある。このセンターへは夕刻到着したが着くや否や荷物を部屋へ置いて、すぐさまサウナ小屋へ案内された。サウナに入りながらソーセージとビールで乾杯、裸のおつきあいが出来ることは親友として歓迎している意味が含まれ、最高のおもてなしであると通訳の説明があった。

センターのタパニ・イルカ所長は小屋の外の薄く氷の張った湖で泳いで見せてくれたが、慣れない吾々は無理をせず小屋の中にある25mプールで泳ぎ我慢する。

この施設も大きく大体育館の中は190m 4コースのトラックや投擲練習場、棒高を含めた跳躍練習場がありフィールドとなる部分はすっかり抜けて地下となり、テニス、バレー、バドミントンの練習場となっていた。屋外には陸上競技場、スキー競技場などがあり広い敷地をしめている。大体育館とは別棟にアイスホッケー専用の練習場があり製氷の熱を室内暖房として使い、更衣室も4つあって選手の入ればかりに手間どらないようにとい



1952年開催のヘルシンキ・オリンピック・スタジアム

った工夫がこらされていた。

こうしてフィンランド研修の最後はビエルマキから再びラハチを通してヘルシンキに戻って、1952年に開催されたオリンピック・スタジアムを見学したり、柔道の欧州5ヵ国大会や格闘技ともいえるアイスホッケーの熱戦に寒さを忘れて観戦した。

北極圏に近いこの国の冬の日照時間は短く、吾々の滞在中でも朝明るくなるのが8時頃、夕方は4時頃にはすでに暗くなっていた。雪の降る季節に入り毎日どんよりと曇って時折小雪の降るヘルシンキだったが、フィンランドの人はとても活潑で朝早くから雪の中に朝市がたち、夜は遅くまでレストランや屋台店が賑っていた。そうした気候や環境を克服する意味もあってか、スポーツに対する国民意識はきわめて旺盛でスポーツ施設の素晴らしきは、そうした国民意識に支えられてのものと思われた。83年にも国際イベントが幾つか開かれるとのことで、そのための準備があちこちで進められていた。

世界で最も美しい女性は北欧の女性であろうと言われている。青く澄んだ瞳には、すい込まれそうな魅力がたたえられ、彫りの深い顔だちと白く美しい肌をした全体的プロポーションの良さにはうき通りだと感心しながら去り難い未練を残してハンガリーへと向った。

(つづく)

昭和58年度

各部・各委員会・委員一覧

◎ 部長・副長・委員長

(S58.6.16現在)

教務部 ◎沼田 敦(教授)
 中元 安雄(講師) 西野 隆雄(講師)

学生部 ◎栗原 拓史(教授)
 望月伸三郎(助教授) 馬場きみ江(講師)
 三野 芳紀(講師)

就職部 ◎酒井 清(教授)
 木村捷二郎(講師) 松村 瑛子(講師)

図書館 ◎森本 史郎(教授)
 栗原 拓史(教授) 加藤 義春(講師)

学寮 ◎森下 利明(教授)
 小澤 貢(教授) 栗原 拓史(教授)
 浜中久美子(講師)

薬草園 ◎太田 長世(教授)
 小澤 貢(教授) 馬場きみ江(講師)
 三野 芳紀(講師)

実験動物センター ◎酒井 清(教授)
 森坂 勝昭(教授) 森本 史郎(教授)
 藤田 直(教授) 玄番 宗一(助教授)
 稲森 善彦(助教授) 中元 安雄(講師)
 安田 正秀(講師)

広報委員会 ◎森本 史郎(教授)
 中元 安雄(講師) 馬場きみ江(講師)
 浅野 忠行(事務局長) 豊田 忠法(図書課長)
 庶務課長

研究委員会 ◎田中 千秋(教授)
 玄番 宗一(助教授) 石田 寿昌(助教授)

大学院検討委員会 ◎堀田 輝明(学長)
 山口 秀夫(教授) 森本 史郎(教授)
 平野 弘(教授)

排水処理委員会 ◎松永 春洋(教授)
 小延 鑑一(教授) 森本 史郎(教授)
 水谷 泰久(教授)

R I運営委員会 ◎田中 千秋(教授)
 森坂 勝昭(教授) 酒井 清(教授)
 井上 正敏(教授) 森本 史郎(教授)
 沼田 敦(教授) 玄番 宗一(助教授)
 木村捷二郎(講師)

企画委員会 ◎堀田 輝明(学長)
 森坂 勝昭(教授) 森本 史郎(教授)

曾根 節子(助教授) 太田 長世(教授)
 水谷 泰久(教授) 井上 正敏(教授)
 山口 秀夫(教授) 森 逸男(教授)
 小澤 貢(教授)

卒後教育委員会 ◎堀田 輝明(学長)
 森坂 勝昭(教授) 森本 史郎(教授)

記念史編集委員会 ◎曾根節子(助教授)
 太田 長世(教授) 井上 正敏(教授)
 森下 利明(教授) 加藤 義春(講師)
 馬場きみ江(講師)

人事異動

学生部長発令(58・6・16)
 栗原 拓史(教授)

学生部長退任(58・6・15)
 小澤 貢(教授)
 (任期満了につき)

退職(58・6・18)
 伊東 容子(助手) 薬剤学

大学ごよみ

4月11日(月) 入学式
 (入学生学部308名, 大学院8名)

4月12日(火) 新入学生ガイダンス 午後アドバイザー
 面談

4月13日(水) 授業開始 午後2~4回生ガイダンス

4月22日(金) 午後学生会館竣工記念祭

4月23日(土) 午後新入学生歓迎会(学友会卯月祭)

4月20日(水) } レントゲン検診
 4月26日(火) }

5月9日(月) 本学創立記念日

5月10日(火) } 健康診断内診
 5月12日(木) }

5月16日(月) } 単位獲得試験
 5月28日(土) }